令和5年度
道徳教育授業実践研修会

行政説明

「道徳科の授業づくり」

天草教育事務所
令和5年10月19日（木）

説明内容

道徳科の授業づくりについて

2

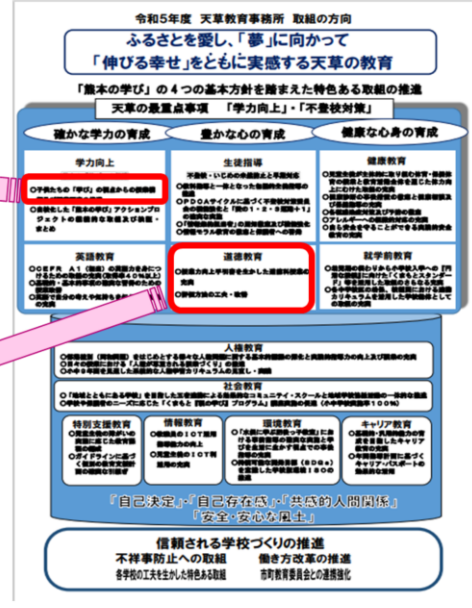
道徳科の授業づくりについて

【天草教育事務所取組の方向から】

【学力向上】
〇子供たちの「学び」の視点からの授業構想及び授業研究の推進

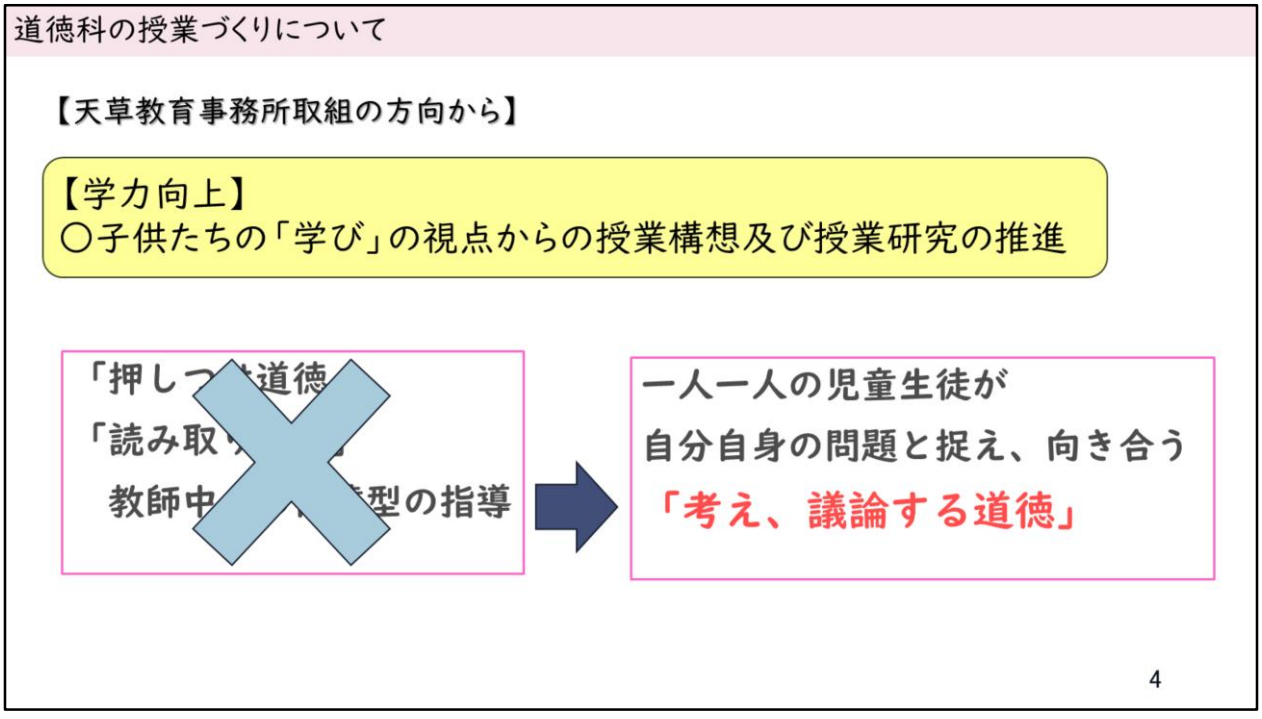
【道徳教育】
〇授業力向上手引き書を生かした道徳科授業の充実

〇評価方法の工夫・改善



3

スライド3
「天草教育事務所取組の方向」の中で、道徳科の授業づくりと関連するものは、大きく3つ。1つ目が学力向上の1つの項目である「子供たちの『学び』の視点からの授業構想及び授業研究の推進」、
2つ目が道徳教育の「授業力向上手引き書を生かした道徳科授業の充実」そして、
3つ目が「評価方法の工夫・改善」。



スライド4　「子供たちの『学び』の視点からの授業構想及び授業研究の推進」について、本県が掲げる「熊本の学び」では、「問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める子供」を実現する授業づくりを目指している。そのためには、子供の学ぶ意欲を高め、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることを徹底し、「主体的な学び」の基盤づくりを進めていくことが大切。

そこで大切になるのが「学びの視点」の転換。これまでの授業は、主に教師の側、教える視点で構成されてきた。児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業になっている、いわゆる「押しつけ道徳」読み物の登場人物の心情理解に偏った、形式的な指導が行われる、いわゆる「読み取り道徳」「伝える」「教師がしゃべり過ぎる」という教師中心の伝達型の指導からの脱却が、道徳科の実践に向けての課題とされてきた。「熊本の学び」では、子供の学びに視点を転換し、「子供たち、学びの側」から考え、子供たち一人一人の学びを十分に理解することを大切にしている。

つまり、道徳科においても、教師中心の教える視点を、子供たちの学びの視点へと転換して、授業構想をしていく必要がある。子供たちの学びの視点から授業を構想していくうえで、道徳科の授業づくりの軸となる考え方が「考え、議論する道徳」この「考え、議論する道徳」は、発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供たちが自分自身の課題と捉え、向き合うというもの。このように、天草教育事務所取組の方向では、道徳科においても、子供たちの「学び」の視点からの授業構想を目指している。

道徳科の授業づくりについて

【天草教育事務所取組の方向から】

【道徳教育】
〇授業力向上手引き書を生かした道徳科授業の充実
〇評価方法の工夫・改善

活用状況はいかがでしょうか。

5

スライド5　次に、「授業力向上手引き書を生かした道徳科授業の充実」、「評価方法の工夫・改善」について。
熊本県教育委員会では、「考え、議論する道徳」の実現に向けて、令和5年3月に「道徳科授業力向上手引き書」を作成し、各学校に配付。県のホームページにも掲載。

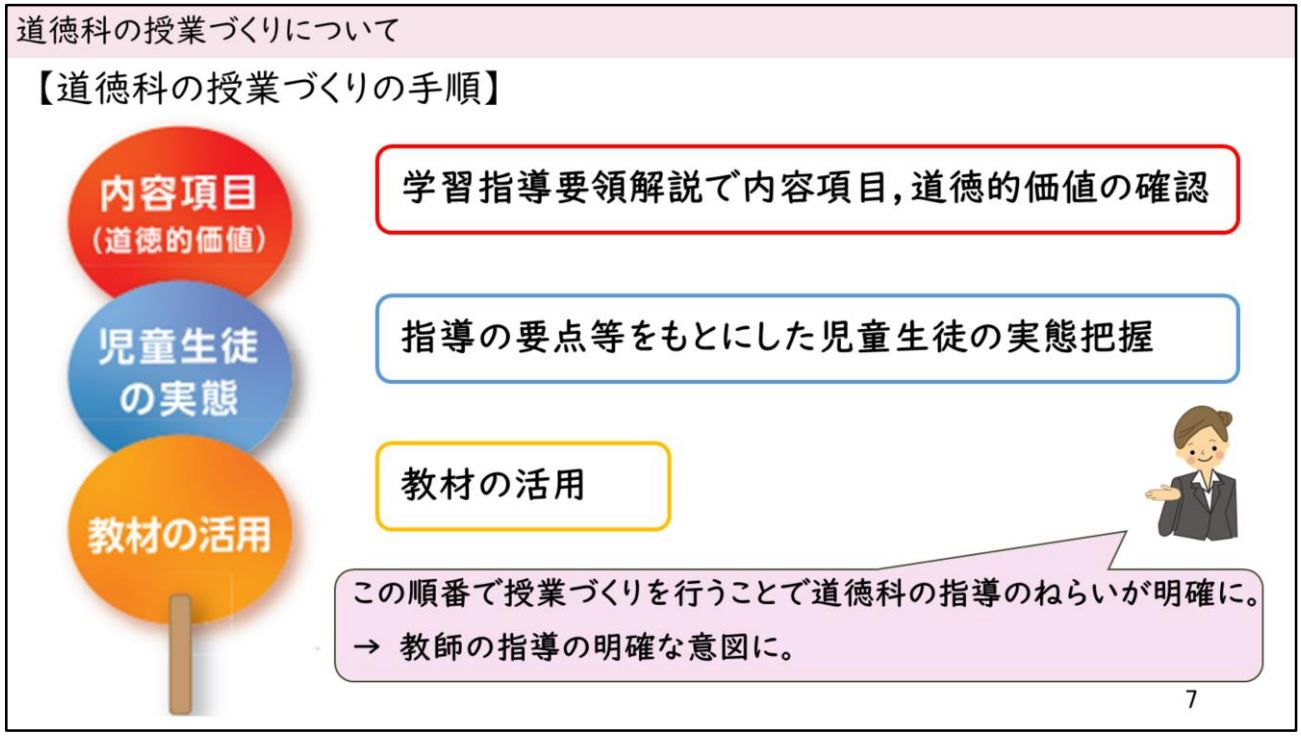
道徳科の目標

道徳科の目標
(「第３章　特別の教科　道徳」の「第１　目標」)

第１章総則の第１の２の(2)に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え，自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

小学校学習指導要領(平成２９年告示)解説(特別の教科　道徳編)，中学校学習指導要領(平成２９年告示)解説(特別の教科　道徳編)

スライド6
手引書の１ページ。道徳科の目標が示されている。道徳性を養うことが道徳科の目標。



スライド7
そして、この手引書の1ページには、道徳科の授業づくりの手順が示されている。授業づくりの時には、このお団子をイメージしてほしい。串にさされたお団子は、たいてい一番上から食べていくもの。
道徳の授業づくりも、まず、内容項目や道徳的価値の確認。次に指導の要点等をもとにした児童生徒の実態把握。そして最後に教材の活用。この手順を大切に。
この順番で授業づくりを行うことで、道徳科の指導のねらいが明確になる。これが、「こんなことを考えさせたい、こんなことに気付いてほしい・・・」という教師の指導の明確な意図になる。

道徳科の授業づくりについて

内容項目は・・・

児童生徒にとって
自らが道徳性を養うための
手掛かり

教師にとって
道徳性を養うための
手掛かりと同時に
授業づくりの手掛かり

まずは、学習指導要領解説を
読むことから始めてください。

8

スライド8
内容項目は・・・児童生徒にとって自らが道徳性を養うための手掛かり。教師にとって道徳性を養うための手掛かりと同時に授業づくりの手掛かり。まずは、学習指導要領解説を読むことから。

道徳科の授業づくりについて

B　主として人との関わりに関すること

7　親切，思いやり

〔第１学年及び第２学年〕
身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。
〔第３学年及び第４学年〕
相手のことを思いやり，進んで親切にすること。
〔第５学年及び第６学年〕
誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること。

内容項目

（中学校）
〔思いやり，感謝〕
思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。

よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として，相手に対する思いやりの心をもち親切にすることに関する内容項目である。

(1) 内容項目の概要

自分のことばかりを考えか[illegible]ましい人間関係を構築すること[illegible]もって接するようにすることが[illegible]場を自分のことに置き換えて推し量り，相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには，相手の存在を受け入れ，相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。具体的には，相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また，単に手を差し伸べることだけではなく，時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。相手のことを親身になって考えようとする態度を育てることが期待される。

特に学校生活においては，学校の人々や友達など様々な人と直接的に多様な関わり合いをもてるようにすることが求められる。その上で，相手の立場を考えたり，相手の気持ちを思いやったりすることを通して，思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが重要である。

内容項目の概要

指導の要点

(2) 指導の要点

■　**第１学年及び第２学年**

この段階においては，家族だけでなく家の周りの人や学校の人々，友達などとの関わりが次第に増えてくる。発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが，様々な人々との関わりの中から，相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。

指導に当たっては，幼い人や高齢者，友達など身近にいる人に広く目を向けて，温かい心で接し，親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。そして，身近にいる様々な人々との触れ合いの中で，相手のことを考え，優しく接することができるようにすることが求められる。また，その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし，具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である。

■　**第３学年及び第４学年**

この段階においては，学校生活を中心として友達同士の交流が活発になるとともに，活動範囲も広がってくる。様々な人々との関わりが次第に増えていく中で，相手の気持ちを察したり，相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる。一方，ともすると他の人々の感じ方や考え方が自分たちの感じ方や考え方と同様であると思い込みがちになることもこの時期の特徴と言われている。そのため，相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。

指導に当たっては，相手の置かれている状況，困っていること，大変な思いをしていること，悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え，親切な行為を自ら進んで行うことができるようにしていくことが大切である。

■　**第５学年及び第６学年**

この段階においては，自他を客観的に捉えることができるようになってくる。そのため，相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。また，家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく，地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり，より多様な人々と接する機会が多くなってくる。

指導に当たっては，特に相手の立場に立つことを強調する必要があり，自分自身が相手に対してどのように接し，対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また，人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え，思いやりの心とそれが伴った親切な行為を，児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。そのためには，児童が多様な人々と触れ合い，助け合って何かをするような機会を増やすとともに，それらの体験を生かし，思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。

発達段階ごとに指導の際、大切にしたいこと

児童生徒の実態把握を行う際のヒント

9

スライド9
手引き書2ページ。まず学習指導要領解説の内容項目のページで道徳的価値を確認。次に内容項目の概要や指導の要点を読む。そして、指導の要点をもとに児童生徒のよさや課題を確認し、本時で考えさせたいことを決めていく。学習指導要領解説の内容項目のページは、このように見開き2ページでこのように構成されている。活用を。

道徳科の授業づくりについて

B　主として人との関わりに関すること

7　親切，思いやり

内容項目

〔第1学年及び第2学年〕
身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること。
〔第3学年及び第4学年〕
相手のことを思いやり，進んで親切にすること。
〔第5学年及び第6学年〕
誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること。

（中学校）
［思いやり，感謝］
思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。

よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として，相手に対する思いやりの心をもち親切にすることに関する内容項目である。

内容の記述に当たっては、その内容項目を概観するとともに、内容項目の全体像を把握することにも資するよう、その内容を端的に表す言葉を付記したものを見出しにして、内容項目ごとの概要、学年段階ごとの指導の要点を示している。

（学習指導要領解説27ページ）

10

スライド10
「内容項目」について確認。例えば、学習指導要領40ページにこのように記載されている。この場合の「親切、思いやり」は、「内容項目」ではない。学習指導要領解説25ページ（中学校は27ページ）に「内容の記述に当たっては、その内容項目を概観するとともに、内容項目の全体像を把握することにも資するよう、その内容を端的に表す言葉を付記したものを見出しにして、内容項目ごとの概要、学年段階ごとの指導の要点を示している。」と記されている。「内容項目」の捉え方の確認を。

道徳科の授業づくりについて

授業づくりステップシート

内容項目
（道徳的価値）

内容項目，道徳的価値を学習指導要領解説で確認
①内容項目
②道徳的価値

児童生徒の実態

① 道徳的価値に関する児童生徒の実態は？（指導の要点を参考に）

② この授業でこんなことを考えてほしい，こんなことに気付いてほしい

教材の活用

教材を吟味
・考えさせたいところに線を引きながら　・どのように活用し，どのような学習を行うのか考えながら

ねらい

（　　）学習（活動）を通して

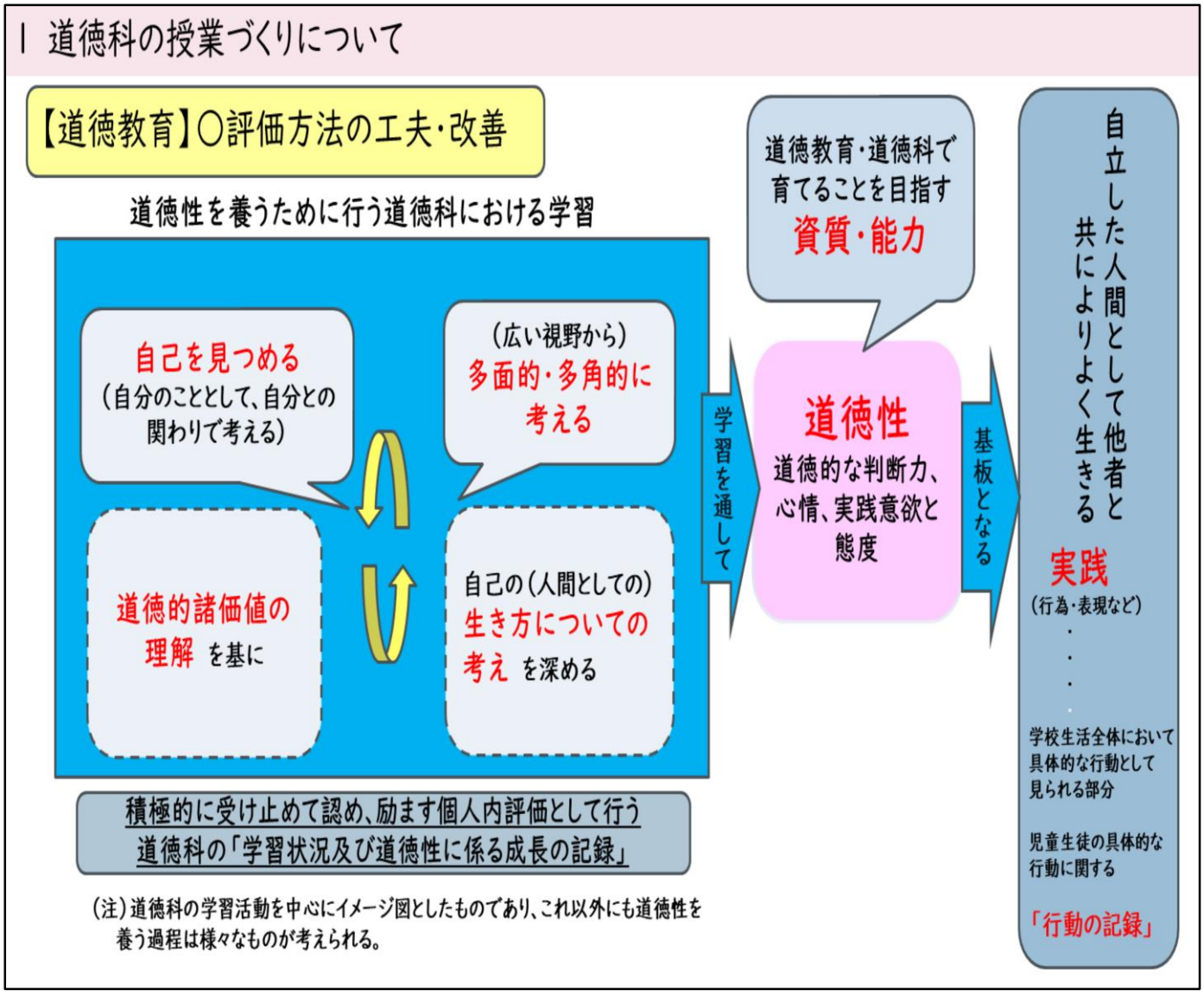
（　　）判断力・心情・実践意欲・態度を育てる

中心的な発問

スライド１１
これは、授業づくりステップシート。内容項目を確認し、児童生徒の実態をもとに本時で考えさせたいことが決まったら、教材の活用。

道徳科の授業づくりについて

スライド12
お団子の3つ目、教材の活用について。教材を吟味し、本時のねらいを決める。次に中心的な発問から考え、その中心的な発問を生かすためにその前後の発問を考える。
そして、導入、終末を考えていく。



スライド13
評価方法の工夫・改善について。「特別の教科　道徳」の時間は、「道徳的諸価値について理解する」時間。また、「自己を見つめる」時間。さらに、「物事を多角的・多面的に考える」時間。そして、「自己の生き方についての考えを深める」時間。このような学習を通して、道徳性を養うことが道徳科の目標。言い換えれば、道徳科の学習がこのように成り立っていないと、評価もできないということになる。
このような道徳科の学習を行い、その学習活動で見られる子供たちの学びの姿に着目して評価を行う。道徳性に係る成長の様子を、大くくりなまとまりを踏まえた個人内評価を行うことが求められる。
評価方法の工夫・改善については、道徳科授業力向上手引き書を参考に。

ふるさとを愛し、夢に向かって
『伸びる幸せ』をともに実感する天草の教育」

14

スライド１４